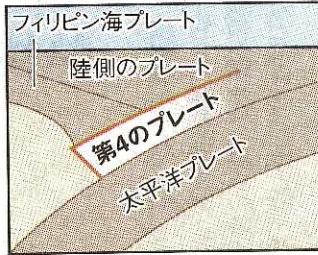
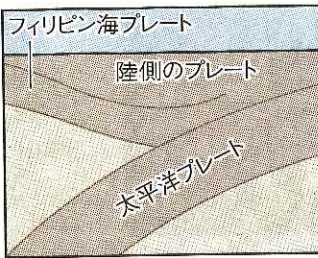


関東直下 想定外 プレート

産業技術 総研分析 地震活動に影響？

東京都心部を含む関東地方の地下に、これまで想定（岩板）があり、首都圏の

遠田研究員の研究結果 産業技術総合研究所 活断層研究センターの遠田



新聞新報

2005年(平成17年)5月27日 金曜日

地震の震源の分布を3次元プレートである可能性が高いことが判明した。分析によると、新たなプレートは1辺が約1000キロメートルの四角形で、東京湾岸から群馬県にかけて広がっている。深さは40〜80キロ、厚さは平均で25キロ程度という。

普次主任研究員が26日、千葉市で開催中の地球惑星科学関連学会合同大会で発表した。関東地方の地下では、陸側のプレートの下に沈み込むフィリピン海プレート、さらにその下にある太平洋プレートが複雑に影響し合い、地震を発生させると考えられている。

東京都心部を含む関東地方の地下に、これまで想定されていなかったプレート（岩板）があり、首都圏の地震活動に影響を与えている可能性があることが分かった。

* 産業技術総研分析

産業技術総合研究所活断層研究センターの遠田普次主任研究員が26日、千葉市で開催中の地球惑星科学関連学会合同大会で発表した



関東直下 プレート

想定外

地震活動に影響か

関東地方の地下では、陸側のプレートの下に沈み込むフィリピン海プレート、さらにその下にある太平洋プレートが複雑に影響し合い、地震を発生させると考えられている。

遠田研究員は、関東地方で1979年以降に起きた地震の震源の分布を3次元で分析し、地下構造を調べた。その結果、群馬県まで

延びていると考えられている。新たなプレートは、そうした大地震が、関東直下でも起きる可能性が高いことを示している」と指摘している。